

日本海南西部海域における“シロイカ”の漁況予測

森 脇 晋 平
(島根県水産試験場)

要 旨

1981年から1985年の間、山口県から兵庫県に亘る4県が参加して実施した“シロイカ”共同研究を通して得られた成果のうち、漁況予測に利用可能と思われる漁況変動の知見を拾い出して話題提供とした。その要点は、時空間スケール数日～数10kmの漁況変動としては、(1)海上風の変動が流れの場の変動を通じて“底部冷水”の変動に関連し、この変動は“シロイカ”群の沿岸漁場への補給に関与していること、さらに大きな時空間スケールとしては、(2)いわし類の産卵に伴う卵・稚仔の出現時期とその量的変動、つまり餌生物の変動が「食う—食われる」の関係を通じて“シロイカ”の資源変動に関与し、それが“シロイカ”の漁況変動に反映していると考えられる、ことの2点である。

用いた資料は次のとおりである。

- (1) 森脇 晋平・小川 嘉彦 (1986). 餌生物としてのいわし類の変動が“シロイカ”の漁場形成と漁況変動に及ぼす影響. 水産海洋研究会報, (50): 114-120.
- (2) 森脇 晋平・河野 光久 (1987). 日本海南西部沿岸海域における1981年以降の“シロイカ”漁況の季節変動様式. 水産海洋研究会報, (51): 290-292.
- (3) 小川 嘉彦 (1982). “シロイカ”の漁況変動に及ぼす餌生物の量的変動の影響. 水産海洋研究会報, (41): 1-10.
- (4) 小川 嘉彦・森脇 晋平 (1986). “底部冷水”の変動機構. 東北水研報, (48): 97-114.